

**令和2年度  
第2回藤島地域振興懇談会  
会議録(概要)**

期 日：令和3年3月18日(木)

場 所：藤島庁舎3階 大会議室

## 第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 令和3年3月18日(木) 15:00～17:00
- 会 場 藤島庁舎3階 大会議室
- 出席委員（五十音順） 8名  
井上佳奈子、上野隆一、大沼恒司、神林守、齋藤豪、佐藤智信  
高橋和夫、高山千代子
- 欠席委員 7名 菊池健司、齋藤真如、菅原きよ、庄司尚樹、土門茜、野宮奨、松田麻季
- 市側出席職員  
〈藤島庁舎〉支所長 武田壮一  
総務企画課長 小林正雄  
市民福祉課長 長谷川郁子  
産業建設課長兼エコタウン室長 成田譲  
農業委員会事務局長 佐藤友志  
総務企画課課長補佐 叶野仁  
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優  
総務企画課冠専門員 松田耕  
〈本所〉 企画部地域振興課地域振興専門員 本間育子
- 次 第
- 1 開 会（総務企画課長）
  - 2 あいさつ（上野会長）
  - 3 協 議（設置要綱第6条に基づき会長が議長）
    - (1) 令和3年度藤島地域主要事業について
      - ・令和3年度藤島地域主要事業(各課長) 資料1～資料6
      - ・令和3年度まちづくり未来事業について(齋藤主査) 資料1、2
    - (2) 地域振興に関する意見交換
    - (3) その他
  - 4 閉 会

## 2. あいさつ（上野会長）

みなさんこんにちは。今年はコロナという事もあって、今回で二回目の懇談会の開催になります。平成30年のまちづくり未来事業が始まったころには、結構な回数を開催した記憶があります。コロナという事もあり、なんとなく地域の活動は、少し沈滞したと感じております。

これからワクチン接種が行われて、コロナ禍が終わった段階で、多少新しい部分を作りながらも、地域の復活が望まれるのではないかと考えられます。

その中でも、今年度の公共交通事業は非常に取り沙汰されてまいりました。それから、この地域においては、ぼっぼの湯、まち湯の再生と言いましょいか、これからの活動に向けての議論と、組織の転換が行われております。これも来年度より事業化されていきますので、今までよりも活発な事業になるように期待しています。

そのような期待を含めまして、今年度最後、且つ、二年目最後、任期が今年一年の方もいらっしやったかとは思いますが、基本的に三月いっぱいでの今回の任期は終りとなります。そのようなこともありまして、本日の懇談会は、二年間を総括して、事務局側から説明を聞いたうえで、皆さんが考えている事、言いたい事、忌憚のない意見をお聞きして、来年度の地域運営に繋がっていけばいいと思いますので、活発なご意見をよろしく願います。ありがとうございました。

## 3. 説明・協議

### (1) 藤島地域主要事業について

- ・令和3年度まちづくり未来事業について
  - － 説明 － 総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優
- ・令和3年度藤島地域主要事業
  - － 説明 －
    - ① 総務企画課長 小林正雄
    - ② 市民福祉課長 長谷川郁子
    - ③ 産業建設課長兼エコタウン室長 成田譲

### ○上野 会長

ただ今説明のあった、22項目について質問のある方いますか。  
いないようでしたら、まず私から。

3番の長沼・八栄島の公共交通導入事業についてですが、これはこれとして今後実現の運びが見えていますけれども、それに含めて資料3にある藤島から立川・清川に向かうものは、どうやら庄内交通ではやってくれなさそうだという話がありまして、藤島地域全体として公共交通事業の組み直しをする時期になってきているのではないかなと思います。

調査はされているようでしたが、もう少し全体的にこのような問題を抱えていますよとか、こういう事を考えていますよとか、あればお聞きしたいと。

### ○齋藤優 総務企画課地域まちづくり企画調整主査

デマンド交通の現状に至る経緯を申し上げますと、まず東栄地区では10年以上の実績があり鶴岡まで直接輸送している状況にありまして、清川線などの庄内交通の路線との重複がありましたが、廃止になった添川線の代替として導入いたしました。長沼・八栄島では東栄地区と同様に鶴岡まで直接輸送を求める声が上がリ、長沼・八栄島地区の調査事業を実施することとなりました。ここで清川線が通っている渡前地区、藤島地区の方々からも、バス停までが遠ければ空白地域でありバスを利用できない、運行する時間もかなり不便な時間設定のため使う人がまずいない状況であり、東栄のようなデマンドの方が便利だという話が聞かれるようになりました。路線バスの運行状況については、乗客は少数でしたが、維持のため市では予算を組んでいる状況にありました。このため住民の利便性を第一に考えて、また新しい公共交通を検討の必要性が増していると思われ、東栄地区、長沼・八栄島地区も含めた藤島全体の交通網の設計を専門家に依頼する事業を来年度実施いたします。

### ○武田 支所長

私から補足しますけれども、これまでバス路線があったところの乗客が少なくて廃止する。その代替交通として東栄地区はデマンドがスタートしました。廃止に合わせて代替交通を措置すると、これまでは財源的な措置が国なり、県であってスムーズにできたのですが、長沼・八栄島には前は押切線があったけれども、それが廃止になってから少しは町営バスを走らせたのですが、そのあとずっと空白地帯になっていたのも、実質なかなか手を付けられないエリアでありました。それを今回、まちづくり未来事業を活用して取り組んだというのは、まず一つの未来事業の効果ではないかと思えます。

図を見ていただくと分かるように、東栄と長沼・八栄島地区の両デマンドが順調に運行されると、藤島のほぼ全域をカバー出来る。そういう計画づくりを、来年度に進めることとしております。当然、清川線は庄内町に通じますので、庄内町の方の利便性も必要になってくると思いますが、庄内町は今全域でデマンドをやっているようですので、デマンドとデマンドの乗り換え等が可能なのか、そういった事も来年度の調査事業にも含めていきたいと考えております。

また、デマンドの事を皆さんご承知とは思いますが、基本的にドア to ドア、家の前まで迎えに行つて、目的地いわゆる停留所まで乗せてくれますので、間違いなくバス路線よりは便利になります。

そんな状況でございますので、なんとか今以上に暮らしやすい地域にできればと思っております。

## ○上野 会長

この資料3を見ますと、乗車人員当たりの費用がとても高くなっているのですよね。先ほど説明がありましたけれども、輸送人員は34%落ちているのに、費用はうなぎのぼりに伸びているとの事で、これをデマンドに変えた場合、どのような費用対効果になるのか、そのへんの調査資料はありますか。

## ○齋藤優 総務企画課地域まちづくり企画調整主査

金額的にいくらになるという調査はまだ行っていませんが、東栄地区のデマンドで約400万円を補助している状況ですので、長沼・八栄島地区も大体同じぐらいの人口になりますので、規模的には東栄と同じように400万円程度かかってくるのかなと思われまます。単独でやれば、当然別々で委託する必要が出てくるので、そのような金額が出てくるのですが、これを全域デマンドとした場合は、先ほどの東栄地区の400万円、それからバス路線を維持するための600万円、あわせて1000万円程度になるわけですが、この予算があれば全域デマンドは可能ではないかと考えております。

## ○武田 支所長

資料にバス路線で年間2,200名と載っておりますけれども、東栄のデマンドも2,000名程度の人数がありますので、東栄の400万円、こちらの670万円、比較してもコストパフォーマンスは良いものではないでしょうか。

## ○上野 会長

はい、わかりました。要するに、この定期路線バスは無駄が多いという事ですね。時間の無駄だったり、家から停留所の時間が長くて歩けなかったりと、そんな無駄をどのようにして無くしていくかなど、これからの課題だと思います。

## ○高橋和夫 委員

ぼっぼの湯関係ですけれども、利用者はほぼ9割位が常連で、利用客を増やすには、新規を増やさなければダメだと思う。新規を増やすには、このパンフレットではたぶん増えないと思う。なぜなら、三川の田田では、去年の秋2か月くらい期間限定で回数券を増やして8千円で30回、今現在もやっていて、今回は半月くらいの期間だと思うが、そういう風に、ぼっぼの湯はその影響で三川にだいぶ流れたわけです。新規を増やすには、ポイント2倍の期間が一週間では、私は増えないと思う。抜本的に回数券で一か月とかやらないと増えないと思う。行政のやり方だと、こんなものだとは思いますが、ちょっと甘いような感じがする。

## ○上野 会長

長沼の協議会で今はやっていて、そこで今回のような提案をしてみるのはいかがでしょうか。

## ○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

入浴券を無料で発行した場合は、入浴者が増えるのはいいのですが、入湯税というものが発生して当然経営団体が入湯税を負担することになります。もちろん入浴者を増やすことは大命題で、行革施設でもあり経費を落としていくのも大命題です。相反することではありますが、相反する目標をどうクリアしていくかという事で、地元の運営協議会と協議も進めております。

来年度の庁舎の体制は支所長を責任者として、庁舎各課の事業を行っていく予定です。例えば、お祭りの参加賞として実行委員会で入浴券を買っていただき、それを配布して頂く、デマンド乗降場所をぼっぼの湯に設ける、各種健康事業の開催場所という事でも考えています。入浴者の増に結び付くかと言われると難しいものがあるかもしれませんが、まず目標にしているのが、ぼっぼの湯の施設利用、事業会場としての利用者の使用を増やすことを目標にしています。色々と甘いと言われるのは痛切に感じています。1週間無料という事で大キャンペーンを打ちたいところなのですが、またすぐに立ち行かなくなってしまうので、そういった中で地元と庁舎と知恵を出し合っています。

## ○武田 支所長

今回ぼっぼの湯、日帰り温泉事業を見直いたしました。大きなポイントとしてこれまでの20年間というのは、第三セクターですけれども株式会社で運営していました。それはどういうことかと言うと、利益を上げてその利益で継続させると、そういうやり方で、なんとか20年間運営してまいりましたが、そういう入浴者を増やして利益を上げて今後も存続させるというあり方が非常に困難となりました。例えばコロナ禍で1か月も2か月も休業してしまうと、すぐ資金ショートしてしまって立ち行かなくなります。そうしたことを踏まえて、4月からは利益で動かす施設ではなく、健康福祉事業を中心とした公共的サービスを提供する施設へ変える見直しをしました。とはいえ入浴者を増やす努力はしますが、それよりも公共サービスを充実させ委託料で運営する形となりますので、無料券などをどんどん出して入浴者が増えると、その分の入湯税を委託料の中から出さなければいけなくなる。そうすると地元の方が逆に大変な状況になる。それは常に地元の方と協議をしたうえで、まずオープンの際はポイント2倍の取り組みをすることになりました。使っている方のご意見は非常に大切だと思いますので、ぜひこれからもお寄せ頂きたいと思っております。今、スタッフの方は再雇用という形になりましたが、ただ単に移行するのではなく、一人一人から意見を書いてもらい、四月からサービスの向上を図っていきたいと思っておりますので、ご支援をひとつお願いいたします。

## ○委員

一つ質問ですが。温泉のコロナの関係というのは、何か情報はありますか。去年、コロナになってからは温泉施設に行っていないくて、前は行っていたのですが、そういうことは、何も心配ないのでしょうか。

### ○武田 支所長

これは市の温泉施設全てがそうなのだと思いますが、例えばぼっぼの湯であれば2時間ごとに全て洗浄をしたり、換気をしたり、並ぶときに密にならないように間隔を空ける、そういった形で徹底してまいりましたので、市内の温泉施設で患者さんが発生したという話しは聞いていません。

### ○委員

やっぱりどうしてもコロナの事で、どこかに出かける事自体を自粛したりするじゃないですか、買い物だったり、この温泉が密なような気がする人もいるのではないかと思って、最近庄内地方に出ていないから、いいかなとは思いますが、またちょっと出始めたら心配で来場者が少なくなるのではと思うのです。

### ○武田 支所長

コロナ禍で一番悪い時には5割くらいまでいった。おそらく令和2年度は、令和元年度に比べて65%くらいに落ちるだろうと思います。昨年末は藤島でもコロナが出ましたので、あの時は大きくダウンしました。

### ○委員

分かりました。では一つアイデアと言うか、コロナが終息したらの話なのですけれども。やっぱり足を運ぶ機会がないと温泉に入るといってもないのかなと思います。お母さん方の中でヨガとか、健康とか美容にすごく興味があって、ヨガだけじゃないと思うのですよ、ストレッチとか。藤島にもそういう先生がたくさんいるじゃないですか。藤島体育館でもやっているのですけれども。ぼっぼの湯のスペースはちょっとわからないのですが、会社が終わった後の夜の時間帯に、藤島体育館でやっていますけれども。その流れで、ぼっぼの湯でもやって、帰りに温泉に入ってもらおうというのもいいのではないかと思います。

### ○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

スポーツ事業団が体育館で行っている事業をぼっぼの湯で行い、入浴し汗を流して帰って頂くといったようなことを想定はしておりますが、今後事業団と詰めていきたいと思えます。

市内の温泉等の入場時は、熱を測り、サウナは一個空けて座るような、一定のコロナ対策は対応しておりますので安心して家族そろってお越しいただけるものと思います。

### ○委員

それから、常連客の意見で、風呂の温度がぬるいのと、サウナも出てくると風邪をひいてしまうほど低い温度になっているというのがあります。やっぱりそういう所にも少し経

費をかけてほしいです。

### ○委員

まず、ぼっぼの湯は地元地域の宝だという認識でいるわけですし、私も会合などで利用拡大について話題提供させていただいています。先日も、藤島文化スポーツ事業団でもぼっぼの湯を会場にした事業等を多くの実施していただきたいと、また入浴券等を使っただけだと話をしています。

長沼では活性化委員会というものも立ち上げていまして、コロナ禍という事で集まらない状況でしたが、少しぼっぼの湯に特化して事業を運営していこうと、そういう方向で話題になったのですが、長沼の風呂は良いのだけれども、行く途中まで耕作放棄地があって大変景観が悪いという話がありまして耕作放棄地は無くしていかなければならないと改めて思ったところです。また利用拡大というほどにはならないかもしれませんが、ある程度の目標も立てております。

あと、デマンドに関しましても、前回私も話題に出させてもらいましたけれども、今回行政を越えて運行するという事ですので、六月から大変期待するところであります。

### ○上野 会長

今の話の中で、耕作放棄地という話が出ていて、農業委員会事務局長さんがおられますので、これに対して行政として耕作放棄地が出ないような手立てを取っているのか教えていただけませんか。

### ○佐藤 農業委員会事務局長

耕作放棄地の話が出たわけですが、一般的に耕作放棄地と言うと、農業委員会で調査をして見つけたら指導するというような、これまではそういったやり方が主流だったのですが、これからは、そういうものだけではなくて、地域の方々が自分たちの農地を守っていく意識啓発が非常に大事と思っております。添川の方であれば、地域保全会というものがある、例えば年寄りたちが今までやっていた畑が耕作出来なくなったという時に、地域みんなでその事業を使って、耕作放棄地が発生しないように草を刈るという取り組みが出ていますので、そういった物を広くPRしながら、自分たちの農地は自分たちが守っていくのが当たり前だという意識啓発を積極的に進めていきたいと思っています。

### ○上野 会長

今の話だと、当たり前は当たり前なのだけれども、実際は金になるかならないかで耕作放棄地が発生するかしらないかだと思うのです。これが何とか作っていき、収入があるのであれば、耕作放棄地にしないで済む方法があると思うのです。その所有者がダメでも、他の人たちの可能性はあると思うので、そういう手立てはありますか。



### ○佐藤 農業委員会事務局長

以前は再生事業というものがあって、耕作放棄地で私はやっていきたいという時に、国や県の再生事業を使って、再生して自分で所得を上げるといったものがあったわけですが、今は再生事業が無くなっております。なぜかと言いますと、地域で補助金を使って守ってください、再生してくださいと、そういった流れになっています。その地域の中で農地が大事だと位置づけるのであれば、その事業を使ってみんなで協力して再生する流れになっているのです。ですから、個人個人でやるのではなくて、周りで守っていくという流れになっております。

### ○委員

今の耕作放棄地の流れで、空き家という問題は何かやっているのかと思ひまして、例えば空き家がそのままあると、住みやすい町とは言えないと思うのですけれども、何か事業で奇麗にして貸すとかの形にすれば、人口減少に歯止めをかける為に、物件を用意しても、まず入らなければ困るのですけれども、ある程度需要はあるのかなという感じはします。

### ○上野 会長

よく言う話なのだけれども、その割にはなかなか活用していけない。なんでなんだろうとは思うのです。何か空き家対策の分析などはやっているのですか。

### ○小林 総務企画課長

空き家を活用して誰かに貸して利用して頂くという仕組みは、鶴岡市内の旧市内では、そういった取り組みがあって、所有者がそうしてもいいですよと言うものを提供して、それを使いたい人がいますよとマッチングすればそういう例はあるのですけれども、なかなか藤島には提供できる空き家という状況にはない所が多くなっています。空き家調査は五年ごとに大きく調査してしまして、空いている所が他に迷惑をかけないように保全してくださいねとお願いはしていますけれども、なかなか住んでいなくて遠くにいるという所では自分で手をかけられないという状況もあります。そういった場合は所有者が了承すれば、集落で草刈り程度やる場合にある程度の助成というのはありますけれども、なかなか所有者と連絡が取れないこともあって、それを利用している所は少ないような状況です。

### ○上野 会長

耕作放棄地といい、空き家といい、そういった話が増えてきそうで大変ですよ。

### ○委員

今後の藤の花まつりなどに関して、市の方ではどういった考えでいるのか知っておきたい。

もう一つ、農業収入1,000万円以上の経営体を増やしていきたいという事でしたけ

れども、それは収入の方での1,000万円以上の方という事ですね。初期値が16.4%となっていました。という計算方法で16.4%となったのか知りたいなと思いました。

#### ○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

今年度の藤の花まつりの想定は、屋外イベントを中心にやっていきます。屋内でやるイベントについては、今回も見送るという所で提案させていただきたいと思っております。具体的に言うと、体育館を会場とせず、歴史公園と記念館を中心とした、規模は小さくなると思いますが、役所周辺の施設を使って屋外でできるイベントを皆で考えていきたいという事で提案させていただきたいと思っております。

#### ○武田 支所長

農業収入について、分母は、米の作付けの目安を配分している形態の数が分母で、1,000万円以上のカウントの仕方については、毎年申告して頂く訳ですけれども、法人も含めて、その1,000万円を超した数を、市の課税課の方から数字を提供して頂いて出していますので、ほぼ正確な数字です。

#### ○委員

農家さんの数に対して1,000万円を超えた農家が16.4%という事ですね。令和10年の3%はかなり低いのではないかなと思って自分は見ました。農家全体が減ってきて、集約された農家さんというのは、大規模農家に近づいていく訳なので、おそらく比率としては変わってくるのかなと思っていて、令和10年では3%ではきかない数字になるのではないのかなと思っていたものですから、自分の見通しだともっと高い数字でも良いのではと思った次第です。

#### ○武田 支所長

当然、2番目の指標で見直しをしていますので。まず、中間年の令和5年度で一度見直しを図りたいと思っております。

#### ○委員

J Aのアンケートを取った結果なのですが、後継者が「いる」か「いない」かで、「いない」が75%なのですが。「いる」が25%。年齢も60歳以上が66%という事で、現状がそういう状態ですので、令和5年を目途に数字はもっと上がるのではと感じたところです。

#### ○武田 支所長

分かりました。現在は農業収入1,000万円という指標を出していますけれども、農

業の状況もめまぐるしく推移する状況でありますので、まず30%という数字が妥当なのかどうか、あるいは別の指標に変えるべきなのかも含めて、検討見直しをしたいと思います。

#### ○上野 会長

行政指導をして数値を上げていくような形であればよいのですが、ここまで来たから、次はこれではないみたいな、非常に成り行き任せのようなところがあって、やっぱり、目標を決めたら、それに対してどういう事をやっていくかが問われるのではないのでしょうか。

#### ○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

補足しますが、藤島の弱い所は、なかなか複合化にならない所です。例えば西郷のように、メロンと水稻、あるいは白山のように、枝豆と水稻のような組み合わせで、1,000万円を超していくのだというイメージで、事業展開を進めていきたいと思っています。ご存知のように、まだ米を使った転作から藤島は抜け出せていなくて、そこがやっぱり一番大きな課題と思います。元気食楽部の事業でも、その所に起点を置きながら進めていきたいと考えております。1,000万円の中の目標のイメージとして考えていただければと思います。

#### ○委員

ぼっぼの湯の事なのですが、ちょっと前に、お湯が枯渇したとか、施設の老朽化とか、そういった事は心配ないのでしょうか。それともう一つ、コロナのワクチンについて、ある人から聞かれたのですが、どうしてもしなければいけないのかと、断ることは出来ますか。

#### ○長谷川 市民福祉課長

ワクチン接種は強制ではなく個人の自由ですので、努力義務というか、受けていただければということになっています。

#### ○武田 支所長

ぼっぼの湯の事ですが、確かにオープンから今年21年目になりますので、あちこち老朽化は進んでおります。それで市の方も年間ベースで900万円ほど修繕費は確保したうえで、継続の計画を立てております。あと、お湯の枯渇はしていないのですが、ぼっぼの湯は、とても効能が良いのですけれども、反面その成分が多くて、カルシウム分等が多くて、源泉のパイプが目詰まりしている状態で、今は毎分30数リットルしか出ていません。最初に掘削したときは、461リットル出ていました。前の古い温泉の時は毎分7リットルでした。詰まったものを10年に一回くらいは掃除をしてきれいにする、また出てくるかもしれません。それを令和5年にクリーンアップする事業は想定しています。

**○委員**

そこまで待てるかどうか、先ほどサウナが寒いとかありますが。

**○武田 支所長**

サウナについてはすぐに改善を検討いたします。

**○委員**

運営者ではないので、何とも言えませんが、従業員がパートを入れて26人もいるというのにビックリしました。今は18人ですが私はもっと少なくてもいいと思います。

**○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長**

その見直しも今協議会の方でやっております。今年度よりさらに減らすことが出来るということになるかもしれません。

**○委員**

やっぱり常連から、無くさないでほしいと言われているのです。

**○委員**

コロナの後、だいぶ客が減っています。客が減った理由、経営側はちゃんと考えているのかなと思います。常連客の間では、ぼっぼの湯が一番ダメだと言っていますよ、何が悪いのか、何を变えなきゃならないのかという所を、たぶん話をしていないのかなと思います。いつも話を伝えているのですが、まずシャワーの温度、圧の弱い場所がある事、こういった基本的な事をちゃんとやってください。そういった所から変えていかないとダメだと思う。他の温泉に行くと、いつもぼっぼの湯で会う人と会うのです。

**○上野 会長**

今の齋藤さんの話、非常に現実的というか、根本的な話ですよね。シャワーの温度が低くて量がなかったら、温泉としての価値を持たないわけであって。これは今すぐ直せるのですか。予算的にも。

**○武田 支所長**

修繕箇所が多く順にといった形です。

**○委員**

新しく協議会の中に常連客の方に男女一人ずつ役員に入ってもらっています。そのあたり、いろいろ意見を賜っている所です。例えば従業員によって温度が違うとか、そういつ

た話も聞いていますので、これからは色々と改善されていくとは思っていますので、まず、離れないで一つ、お願いしたいと思います。

### ○武田 支所長

来年度の4月から、今もそうですが、地元の方たちが一生懸命に関わってもらっている、本当に力になると思います。今までは、温泉のスタッフと庁舎の担当者が実戦部隊で実質やっていたのにプラスして今は地元の声とか、こういった方々の声とか入ってきています。

### ○委員

宴会場と食堂が別個になると聞いたのですが。別個になると、管理は違ってくるのですか。何を言いたいかという、以前宴会をしたところ、ビールを頼むと泡の無いビールと言えないようなものを持ってきたことがあった。サービスが下がるともう行かなくなる。

### ○成田 産業建設課課長兼エコタウン室長

この度の見直しで、地区の住民代表の組織に運営が移行するという事で、地区の温泉協議会にお願いしているのは、温泉の運営のみです。産直、食堂は民間の力を借りながら運営していくという事にしています。実は食堂も長沼の地元の方が手を挙げていただきまして、なんとか4月からも継続する方向で動いています。すぐ宴会という所まで対応できるかは分かりませんが、利用者の声がきちっと伝わるような仕組みで運営して頂けるように、こちらの方からも伝えていきたいと思っております。

### ○委員

さっきコロナの話にもありましたが、ちょっと前に聞いた話だなと思って調べていたのですが、群馬県の草津温泉で、源泉がコロナの感染防止に効果があるというような発表を群馬大学がしたと思ったのですが。そのようなことで、私も先週あたりにだいたい温泉に浸かってきたのですが、温泉でコロナって聞いた事がないのですよね。温泉の熱で、例えば水で手洗いするよりも、コロナ菌が取れるというデータもあるようですので、それを活用して、コロナ禍でも減らさない努力をしていただければと思います。あと、全体を見回した時に、ちょっと明るい話題というのが、Hisu花の部分です。去年はコロナ禍でイベントは中止になったという事なのですが、だいたい人数も増えているとの話があると思います。これのベースの部分が、ワークショップとかで若い人たちが意見を出し合っていて、それを実現してきたことが一つの要因なのかなと思うのですが、ぼっぼの湯の運営協議会等にもご意見がある方がいるようなので、若い人なんかも巻き込んでやって頂ければ、また新しいアイデアが出るのかなと思いました。

基本方針成果指標なのですが、農業収入1,000万円の農家はもっと増えるのではないかなと、これはいい話です。空き家対策の話もありましたけれども。実は私の娘、孫2人で4人世帯です。この3月に引っ越しをしまして、庄内町に行ってしまう

した。子育て支援対策プラス、空き家かは分からないのですが、場所も古閑なのですよね。そこにリフォームした手ごろな物件があったという事で、子育てするなら庄内町だと言われました。鶴岡ではとても家は建てられないと。実際、小学校も今年渡前だと新生一桁ですよね。学校を中心としたまちづくりというの、なかなか難しいのかもしれませんが、よく商工会の人からの話で、渡前小学校の向かいに昔の天瑞の跡地があって、この間、煙突は壊したわけですが、農耕地の休耕地というか荒地のような形になっていて、非常にもったいないと、思っていて。そういう部分を宅地造成みたいな形で。町民なんかみみたいな施設よりは、民間の手を介して上手く利益を出しながら、且つ安く。某工務店の社長はお金があればいくらでもやると常々言っていたので。それがどこまで効果があるかは分かりませんが、実際そういう人もいるという事を理解いただければと思います。これから小学校に上がる年長の子なので、非常にもったいないと。家がいくらだったか私は聞いていませんが、取り返せるようにぜひお願いしたいです。三川町は住宅支援、庄内町は子育て支援がおこなわれているから上がっている、鶴岡は同じ事ができないなら、別の方法で子育て世代へアピールしてほしい。

あと、さっきのコロナの話で、個人で考えればいいという話だったのですが、これはやっぱり全体で考える話であって、一人二人が予防ワクチンを打たないことによって、それがこの地域に蔓延するというような。これは難しいことだとは思いますが。今どれだけの指標があるのかは分からないのですが、その辺のデータもぜひ鶴岡市で、これから打ち始めるので難しい話かもしれませんが、個人の自由で、別に打たなくてもいいのだという話になると、接種率というか、これが落ちてくると、ワクチンの必要性がどうなのかという話になってくると、そこは市としての考えをしっかりと出してもらった方がいいのかなと思います。

イベントの話で、私は藤島の人間なのですが、天神祭の実行委員にも所属して、方向性としては天神祭はやると。ただ、相当数の縮小をしながらという事で、あっちも屋外イベントなのですが、参加者だけで1,000人を超えるイベントになっているので、それをだいぶ減らして、さらに沿道のコースを一つに集約して、カラーコーンを立てて席を作って予約制にすると、そんな話でした。市のガイドラインと県のガイドラインに完璧に沿った形にすると、どんな事業も中止にするしかない状況になってくるのかなという部分はあるのですけれども、逆に屋外ならば人数制限をかけ易いのかなと。やるのであれば、Hisu花はどこからでも入れる形になっていますが、ある程度密にならない部分をきちんと考えていく必要があるのかなと。密になるほど、人が来てもらえれば今までなら、ありがたい話だったのですけれども。今はあんまり騒ぐなという話ですので、そういった所からコロナの患者を出してしまったら元も子もないとなりますので。そこまでして開催する必要があるのかどうかという所も、ぜひ実行委員会で考えていただけたらと思います。

## ○上野 会長

この基本方針成果指標の令和10年度の目標値というものですが、どうもこれだけ見て

いるとあまりにも安易に決められている可能性があるのではないかと思います。安易に決められているという事は、例えば令和3年だけれども、ここでは29年度を初期値にはしていますが実はもっと前からあるわけです。前からのデータはずっとあるわけですし、10年も20年も。そのデータを眺めながら、このまま行ったらこうなるのではないかというようなシミュレーションが行われてしかるべきだと思うわけです。且つ、他の地域でどうなのだろうと。そうすれば人口減少率△1.5と書いてあるのだけれども、これってどういう数字なのかと思ってくるわけで。本当に妥当性がある話なのか。そういう妥当性が、あるいは目標値をもっと数字を上げていって、こういう風に例えば三川町ではどうだったとか、今余目の話も出たわけですが、余目町はどうでしたよと。例えば余目町は子育て支援が行われているから、あるいは三川町は住宅支援が行われているから上がっているのですよとか。鶴岡はそれが出来ないのでしょとか、だいたい言われるわけで。けれども、それが出来なかつたら別の方法があるでしょうと。そういう物を探していく、そういう目を持っていかないと、ただ単にこれはこうなのですよと。これだけ見せられても、こんなもんかなと思ってしまうわけです。そうではないような、見せる人に問題を与えるような、問題を意識するような、そういったものがなければ向上は図れないと思うのです。そういったものを作って欲しいと思うのです。

### ○武田 支所長

この成果指標は平成30年に地域振興計画の策定時に設定したものですけれども、その設定に当たっては過去の推移とか、根拠を示したうえで設定させていただきました。例えば、この農業収入にしても基準年の29年度は16.4なのですが、翌年30年は14.8に落ちて、過去の推移なども見たうえで市の政策を推進することで、その当時設定した段階では30%とすると非常に高いのではないかという目論見もありながらも、努力して目指すべきだという設定で進んできたものでありますが、当時の指標の設定の考えなども今後をお示ししたいと思います。

### ○委員

庄内農業高校のまちづくり未来事業ですが、うどん部の活動がすごくフィーチャーされて、生徒増に繋がるのではないかということで話がありましたが、予算も20万円アップして頂いてありがたいなと思っています。上野会長がこのうどんプロジェクトをスタートしてくださったのですけれども、他にも庄農さんが作っているPR動画、YouTubeで見られるのですが、これがすごくいいがあるので、ぜひ皆さんからも見ていただきたいなと思いました。今YouTubeだけでも収入を上げている人もいらっしゃる中で、そういった情報発信というのは、この藤島地域にも有効なのではないかなと思いましたので、例えばデマンドのPRに使ってみたりとかもいいのではないかと思った次第です。

### ○委員

学校の先生が作詞作曲をして、自分で演奏してということだったので、その方の力を借りてもいいのかなと思いますし。とっても面白かったです。

### ○上野 会長

ところで、入学生が定員の60%という話が前々からあるのですが、53、57ときて、今年はまだ終わっていませんが、だいたいどのくらいになるのですか。

### ○委員

2クラス80人募集で1クラスくらいかなとは聞こえてきました。

庄農という事で、資料事前にいただいたもので、職員からも何かあるかと聞いた所、うどんはおいしいし、ありがたいし、もっと手軽に買えるようにAコープなんかで販売してもかなりの行列で、学生もいましたし先生も手伝っていましたが、もっと回数を増やしてほしいなという話もありました。学校内で小麦粉だけではなく米粉を使った加工品は出来ないか。パンなんかはもう技術がかなり進んで、米粉パンをどこでも売ようになりましたけれども、麺に関しては、だいぶ前にはえぬきが出た時に、はえぬき麺あまり評判がよくなって、それから米粉を使った麺は出てこないのですが、そういったものも庄農生ならではのアイデアとかを含めて、何とかやってもらいたいなという話もありました。

あと、祭に関してですが、毎年のように因幡堰ではせせらぎ水路を利用して魚のつかみ取り等をやらせてもらっているのですが、令和2年度は出来なかったのですが役員、職員で水路の清掃は夏休み前に行なっていました。3年度に関しては、両側に並んでかなり体が接触するのは当たり前なので、やるにしてもかなり注意しながらになると思うのですが、その辺も考えながら進めてもらいたいという話もありました。水路の方はやるやらないに関わらず、今年も綺麗にして帰ってきた子どもたちが裸足でも歩けるようにやりますという事で話をしてくださいと言われましたので、因幡でやったなというくらいは見てもらえたなと思います。

### ○委員

学校関連というか、長沼小学校が藤島小学校になって、その後小学校が長沼には無い状態ですが、その雰囲気はどうでしょうか。私は渡前なのですが、渡前小学校がもう時間の問題になっている、諦めモードというか、特別な事業の計画がない限りには、もう時間の問題だなという所に来ていて、そういった時に長沼は地域活動センターに、渡前も3階建ての校舎とグラウンド、体育館がどういった雰囲気になっていくのか、周りの庭だったり。そういうことを想定したイメージがあるのかどうかという。そうなってしまってから考えるのか、今から想定して何か企画していくのかと。校舎の再利用を含めて、長沼の現状と渡前に限らずですがこれからと。聞かせていただければと。

### ○武田 支所長



長沼の事例はおそらく統合になる何年か前から、空き校舎とその周辺の利活用については庁舎も入りながらのようでしたが、基本的には地元の方が思う事を重視していると思います。当時、羽黒の方とかが何校かが統合しましたが、長沼がいち早く活動センターとしてリニューアルして進んだようであります。当然、渡前についても、渡前に限らずどこも同じだとは思いますが、基本的に地元の方々の思いというのが一番優先されるのではないかと思います。藤島地域では中学校がだいぶ老朽化が進んでいまして、今改築に取り掛かっている朝陽五小よりも古いですが、耐震構造になっているので危険度は低く遅くなっていますが、順序から行くと藤中は検討の時期に来るのではないかと思います。中学校の改築に合わせて、周辺にある老人福祉センターとか活動センターに併設している武道館の老朽化や駐車場の狭隘など色々課題がありますので、藤島全体でどうするかという議論や小中一貫校という話も含めて、やはり地域の方々と今後の在り方を一緒に考えさせていただきますので、ぜひ色々なご意見をお寄せいただければと思います。

## ○委員

学校の問題もそうですし、若者がいないと先細りになっていくので、子ども達が増えていく方策というか、まだ結婚していない人だっていっぱいいますよね。そういう人たちも含めて。何がいいのか、いつもその話になると悩むような状態ですけれども。やっぱり三川町とか庄内町から取られないように、ぜひ帰ってきていただくような政策をしていただきたいと思いますし。確かに藤島は農業圏です。しかし、これから人口がどんどん減って行って、お米だけだとお米が余っちゃうので。買ってくれる人が居なければ1,000万円にはいかないし、副業を狙っているとは言いながら、ただで物は作れないし、すぐ出来るというものでもない。何をしたら収入が上がって、所得が増えていけば人が寄ってくるだろうし、そういういいものが出来れば。お米が一番大事でしょうけれど、それだけではなくて、1,000万円以上所得が上がるような方策。そして、第一農業を担う人たちが高齢化しているのが現状で。町内会の中でも、ちらほら離農するという声が聞かれるのが現状なので、やっぱりその辺、若い人たちが集約していく訳です。その時、八栄島とか小中島とか色々先進的にやっている方もいますので、その人たちに集約しやすいような方法を。やめる人だって、受けてくれる人がいないと、簡単にはやめられないような話で。そういう現状があるという状況だと思っていますが、いかがでしょうか。

## ○武田 支所長

農業の所得をしっかり確保してという事で、基本方針の一番目でやっているわけですが、藤島は米単作から脱却できないので、そこを変えようと。それがこのプロジェクトの肝だったのですけれども。一番は枝豆とか、機械化が出来る野菜の品目を導入して複合化を進めて安定的な収入、所得に繋げようという取り組みでスタートしました。ただやっぱり、藤島の農家の長年続いた米単作の取り組みを変えるのは簡単ではない状況ですけれども、それは地道に元気食楽部の中で取り組んで、少しでもそういう取り組みをして、それなり

の実績を上げているという成功モデルを作って示していくしかないのかなと思います。将来的に、どんどん集約が進むと思いますけれども、国とか県とか市もそうですけれども、政策的に農地中間管理機構のように、個人対個人でやるのではなくて一旦集約して白紙にさせていただいて、まとまった形で担い手に集積できる仕組みをとっていますし、市の方の取り組みの中では、話し合いでそれを出来ないかという話を農業者の方に話しかけをしているのですけれども、なかなか進まないけれども、話し合いで交換したりして集約できないかとか。あるいは米だけでやるのだったら、もっと低コストでできる方法がないのかとか。そういったあらゆる角度から進めていかなければ難しいし。まずは、それによって成功モデルを作って示して、そういう地道な作業を進めていく事かなと思っております。

### ○上野 会長

今支所長が言われたように、やっぱり成功事例というか、いい所を作って、あるいは出てきて、それが波及していくしかないと思うのです。役所に何かいいものを作ってくれと言ってもダメだと思う。我々が作っていかなければダメなので。一か月くらい前だったかな、庄内地区の商工会の人たちと、公益大学の学生たちとの交流会をもって、いつまでもこんな同じ話ばかりをやっている仕方がないので、学生の本音の話を聞かなければならないとなったのです。聞いた話が、なぜ学生たちがここに定着できないのかと。公益大でも常時定着者の割合は高くないのです。高専なんかはさらに低いですし。やっぱり、お金が少ないと。所得が少ない。所得が少ないというのは、いくらならばいいのだという話で。やっぱり初任給で月に20万円は欲しいと。初任給で20万円は結構なハードルなのです。役所なんかでも最初はそんなに、どうです。

### ○武田 支所長

市役所で18万ちょっとです。

### ○上野 会長

20万円は行ってないですね。銀行でも行ってないのです。それを20万円と言われると。でも、どこかで20万円に挑戦して行って、壁を突き破っていかないと。やっぱり残らないわけで。どうしたら残るか、簡単に言えば所得を高くすればいいだけで。そんな話になるわけで。やっぱり、どこかで壁を打ち破ることが大切かと思うのです。人に頼らないで、自分でやってみましょう。

時間もなくなりましたがいかがでしょう。

無ければこれで終わらしましょう。

## 6. 閉 会 (小林正雄 総務企画課長)

長時間にわたりまして、皆様には貴重な意見ありがとうございました。今後の事業、取り組みの中で生かしていければと思っております。今後も藤島地域の振興発展のためにお力

添えいただきますようお願いいたします。それでは、これもちまして第二回藤島地域懇談会を閉会します。本日は、どうもありがとうございました。